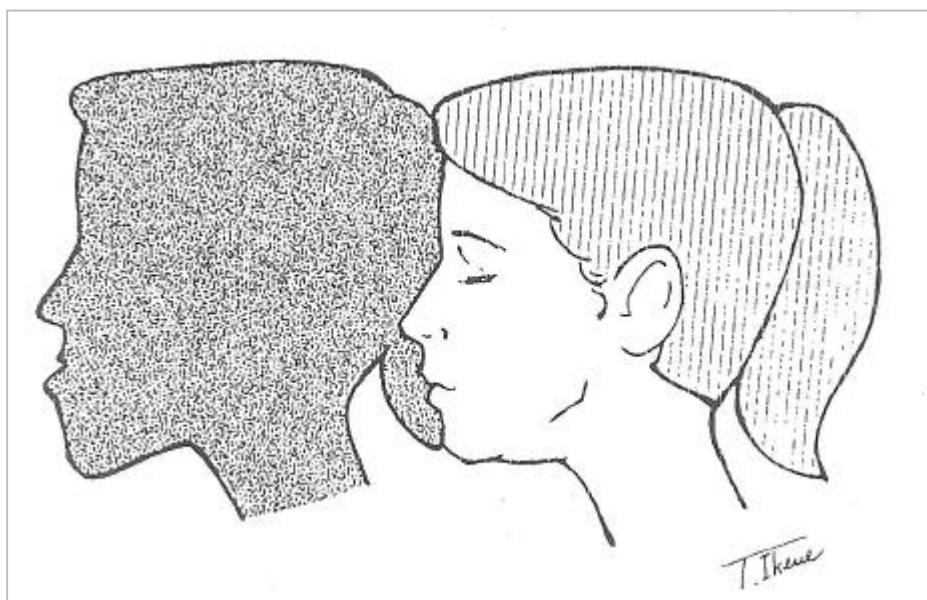


顎変形症の手術を受けられる方へ



香川県顎変形症研究会編

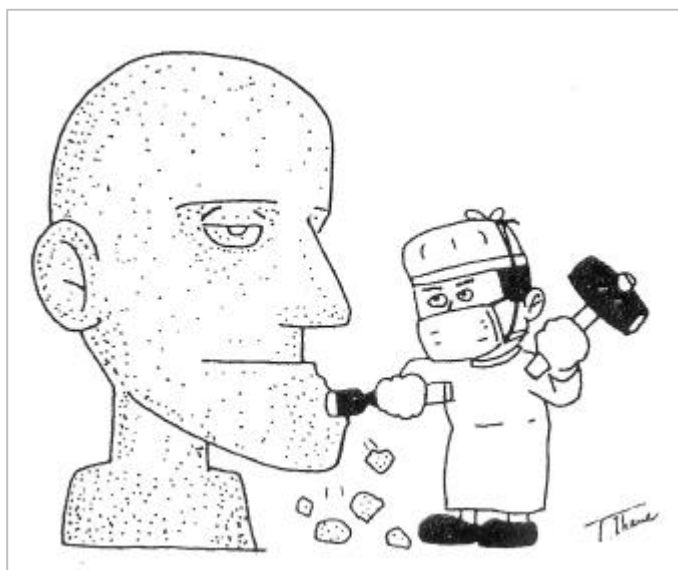
顎変形症の手術を受けられる患者さんへ

顎（あご）の発育に異常があり、歯の矯正治療だけでは噛み合わせや、顔のゆがみが治らない場合があります。これを一般的に『顎変形症（かくへんけいしょう）』言います。たとえば、顎が左右にゆがんでいたり、上顎や下顎が不自然に成長しすぎたり成長しなかったりして噛み合わせがうまくいかない場合などがそうです。これに対し骨を正常な位置に動かしたり、削ったりして良い噛み合わせにするために手術を行います。

手術の前にはまず歯並びを良くするため、矯正歯科にて術前矯正（数ヵ月～2年）を行い、術後にすぐ噛めるようにしておきます。

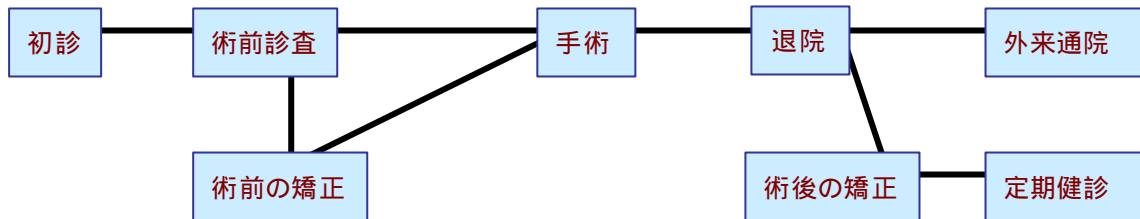
さて、手術についてですが、何の手術についても手術後3～4日は大変しんどいものです。顎の手術も例外ではありません。口の中は、手や足のようには外から固定したり、包帯を巻いたりできません。ですから、口の中で骨を固定します。よって口を動かすどころか口を開くことさえできません。食事も制限があります。治療のことや生活上の注意について、ここでとりまとめて説明しますので、よくお読みください。

治療方針や経過は、患者さん一人ひとり皆違います。担当医、看護婦、歯科衛生士の説明することをよく理解し、必ず守って、体調をくずすことのないように、事故のないように、元気に療養生活を送られますようお願い致します。



治療の概要

患者さんにより違いますので、ここでは概略を説明します。



初診時、手術に必要な検査（レントゲン撮影等）をします。

術前診査の結果により治療計画を立てます。

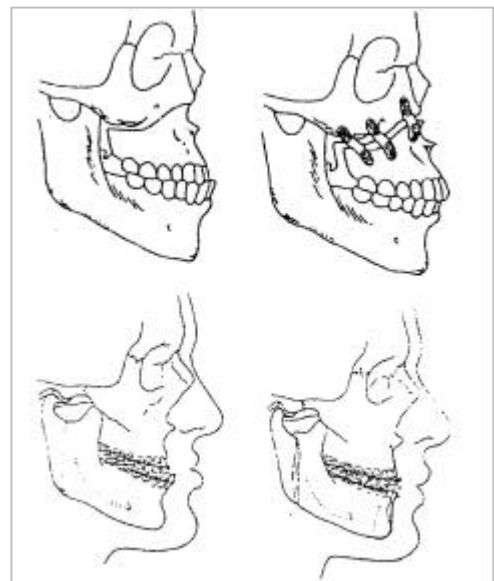
噛み合わせの不正の程度により術前、術後の歯の矯正を行うことがあります。

手術は通常全身麻酔で行い、図のように上顎や下顎を分割し、理想的な位置へプレートやビスで止めて組み立てます。これらの手術は、ほとんど口の内から行い、顔には創は残りません。人により異なりますが、手術は2時間～6時間程度かかります。

手術後、数日間は鼻から胃まで入れたチューブで経管食という液状の食事を取ります。その後しばらく、ミキサーにかけた食事を歯の隙間から摂取します。10日目頃から「おかゆ」、2ヶ月目頃から「普通のごはん」が食べられるようになります。

手術直後より3日目ぐらいとてもしんどいものです。しかしここで我慢できなければ、今までやってきたことがすべて無駄になりますので、頑張ってください。特に、手術直後はほとんど喋ることでできず、医師、看護婦との意志疎通が困難です。自分の意志を通訳するために、家族の付き添いが必要です。しかし数日後からはしゃべることはできますから、あせらずゆっくりしゃべりましょう。

手術後は、いままで矯正をしてきた装置に針金やゴムをつけて上下の顎を固定（顎間固定）していますので全く口はあけられません。そして、口を開けることができるのは、早い人（手術方法で異なります）で、手術後4～5日後ぐらいですが、いきなり今までどおりには開きません、顎間ゴムを自分で脱着して、噛み方をリハビリしてもらいます。口を開け、物を食べる練習を行います。練習方法についてはこちらから説明しますのであせらないでください。



術前，術後の矯正治療について

顎変形症の方は単に顎の位置や形に問題があるだけでなく，歯並びも悪い場合がほとんどです．したがって，顎の手術を受けただけではきちっとした噛み合わせにすることができません．噛み合わせがしっかりしていないと，せっかく手術した顎も不安定で，時にはもとに戻ってしまうこともあります．

そのために，顎変形症の手術には矯正治療が必要になります．ここでは矯正治療の概略について説明します．

しかし，患者さんにより治療方法は異なりますので，あなたの具体的な内容は矯正治療を担当する歯科医師にお尋ねください．

(1) 術前矯正と術後矯正

手術前に歯並びを良くしておき，手術が済んだ時点では上下の歯がきちり噛むようにしておかなくてはなりません．これが術前矯正です．また手術後にも歯並びをより安定したものにする術後矯正が必要になります．

(2) 治療期間

術前矯正は不正咬合の程度（悪い歯並び）によって異なりますが，数ヵ月～2年ほど，また，術後矯正は数ヵ月必要です．治療期間は検査をしてみればより正確に予測することができます．矯正治療中は，およそ月に1回～2回の通院になります．

(3) 矯正装置

矯正装置と聞くと金属の装置を連想し，見た目が悪いと矯正治療に二の足を踏んでいる方もいると思います．しかし最近では，歯と同じ色調や透明な審美的な矯正装置が普及し，大人でも見た目を気にせずに矯正治療をすることができるようになりました．

(4) 矯正治療費

治療費は不正咬合の程度，治療期間，使用する装置などによって異なります．基本的には，手術を受ける場合は保険を使うことができます．術前，術後の矯正治療の自己負担費の合計額は約20～30万円程度（多少前後する場合があります）です．治療費に関しては担当医師とよく相談して下さい．

顎関節症をともなっている場合の手術は，出来るだけ早期に手術をしたほうが良いこともあり，矯正装置を付けた直後に手術をし，その後歯並びをととのえる矯正治療をする場合もあります．

退院後のリハビリ，自己管理について

骨延長などの自己管理が必要な手術については，医師の退院時の指示を必ず守ってください。

顎間ゴム，マウスピースの管理は，退院時と同様に行ってください。外来通院毎に，指示を変更します。

手術後の食事について

骨がきれいにつくまでは，約3ヶ月（ある程度，くっつくのに1ヶ月程度）かかります。固定装置は術後矯正を行うためはずせません。顎間固定期間中，口を開けることも，噛むことも出来ませんので，食事はミキサー食を歯の隙間から飲み込むこととなります。ミキサー食については，作り方，食べ方，おやつの作り方，夜食のとり方等，かなり，めんどろです。退院後は自分で作ることとなりますので，入院中によく理解してください。看護婦が詳しく説明します。納得のいくまで聞いてください。皆様の事情にあわせて，相談に応じています。

流動食しか食べられない生活ですので，不平不満も生まれ，栄養のバランスをくずしたり，体力を消耗したり，空腹にいらいらしたりすることがしばしばで大変ですが，食事回数を増やしたり（1日6回食）栄養価の高い食品の間食を考えたりして下さい。栄養がたよれば，骨のつきも遅れますし，立ちくらみ等をしたりしては，日常生活も思うように出来ません。

食事も，また治療の一つです。患者さんの自覚はもちろん，周囲の方々もいろいろ協力してあげていただきたいと思います。

口腔内の保清について

口が開きませんので，歯の内側の清掃ができません。また，食事の回数が増え，食物の繊維分が装置にそのままかかったり，取れなかったり，腐敗したりして，口の中は大変不衛生な状態になります。虫歯ができたり，膿やただれができやすかったり，歯肉や歯槽骨が段々やせていきます。口の中をきれいにしつづけるには，大変な努力が要りますが，歯肉の出血の循環をよくして，口の中をきれいにしておくのも，治療の一つです。めんどろくさならず，歯ブラシとウォーターピック（少し大きな家電ショップで売っています。）を毎食後，必ず行ってください。

危険事故防止について

口を閉じたままですので、吐き気がする時は大変危険です。吐き出すことができませんので、吐いたものがつまり、窒息することも考えられます。

吐き気がくるようことは、極力さけましょう。たとえば、空腹での飲酒、コーヒーの飲みすぎ、タバコの吸いすぎなどです。

もし万一、吐きそうな時は、とまどうことなく自分でゴム輪を切り、口を開けて吐き出してください。その為には、常に小さなハサミを持ち歩くことも必要となってきます。安全になったところでご連絡下さい。

また、固定装置の金属が、口の中の粘膜にあたり、腫れたり、ただれたりすることもあります。担当医にご連絡下さい。

運動と全身の清潔，生活一般について

固定期間中は食事が貧弱ですので、どうしてもカロリー不足、栄養不足になりがちです。栄養状態が悪いと、風邪をひいたり、下痢をしたり、体調がくずれやすくなります。かといって安静にしてばかりでは、体力が低下します。体の他の部分は健康ですので、体力を維持するためにも、過度な運動を行い、たくさん食事を取って下さい。流動食による水分の取りすぎで、汗もかきますので、入浴、洗髪などは人並みに行い、十分な睡眠を取って節度のある規則正しい生活をされるようお願いします。

定期健診について

術後 6 ヶ月ぐらいは、手術を受けた病院と矯正歯科の双方を、定期的に受診することになります。レントゲン検査での骨のつき具合をみて、固定具のとりかえや、調整をしてもらう必要があります。また、全身状態のチェックも必要です。

また、術後矯正のため、矯正歯科にもきちんと受診しましょう。主治医と約束された診察日には、きちんと受診して下さい。また、装置がとれても、1年に1度は必ず定期健診に来るようにして下さい。

また、骨延長装置などを用いた術式では、治療終了時に、装置の撤去手術が必要になります。そのため、数日間に入院治療が必要となります。

学業，職業について

固定装置をつけたままで，学校へ行ったり，職場につくこともできます．特に，義務教育を受けておられる子供さんの場合は，休めばそれだけおくれますし，休めない職場の方もあろうかと思えます．食事のことがうまく出来れば問題ありません．給食を流動食にかえてもらうか，流動食弁当を持参する，とか方法はいろいろ考えられます．これについては，周囲の方々の理解や協力が必要です．

担任の先生や養護の先生，職場の上司，同僚の方々に，相談されたほうがよいとおもいます．

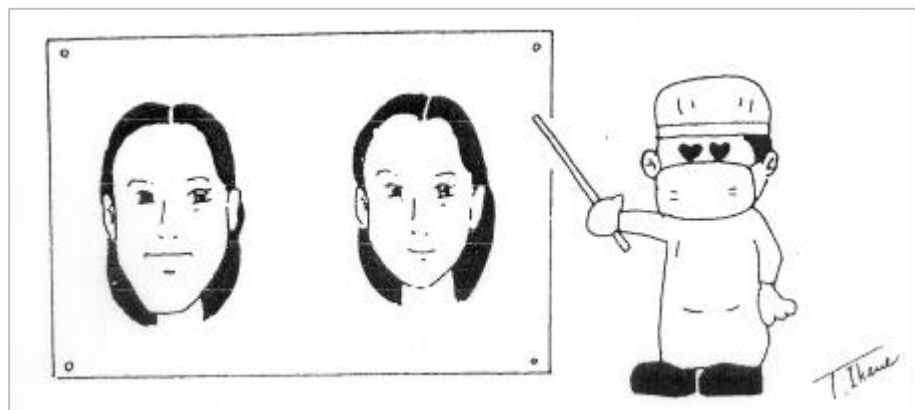
言葉は，当初は今までのように自由には，しゃべれませんが，障害になるという程のことではありません．ゆっくりとですが，とまどわずにお話し下さい．矯正装置が，はずせる頃には，以前よりきれいな発音ができるようになります．

その他

数ヶ月の顎のリハビリ期間が過ぎて，ゴムをはずす時期がきます．はずしたあとは，普通の生活になるわけですが，次のことに気をつけて下さい．

食事では，すぐには硬いもの（例するめ，ピーナッツ）等はひかえたほうがよいでしょう．そして，骨が丈夫になるような食べ物，例えばカルシウムを多く含んだ牛乳，小魚，海藻類，良質蛋白，緑黄色野菜などを多く取って下さい．

この治療には，何本かのビスやプレートが，骨を固定する目的で，あなたの顎に用いられています．特別な異常がなければ，再手術を行って，撤去する必要はありませんが，定期的に経過観察の必要がありますので，数年に1回程度の定期通院をして下さい．



骨延長術を受ける方に

この方法は延長したい骨を人工的に骨折させて、顎骨専用の骨延長器を用いて1～2mm/日の割で骨折部を徐々に延長していく方法です。

従って、手術後に自分で骨延長器を操作して延長していただきます。多少痛みを伴いますが、何回かに分けて延長すれば痛みは少なくて済みます。また、必要なら延長する20～30分前に鎮痛剤を飲んでください。

延長の終了は矯正担当医の先生と相談の上で決めてください。一度延長を止めてしまうと再度の延長はできません。

延長終了後、延長器を除去する手術が必要です。通常3泊4日程度の入院・全身麻酔になります。この手術の時期は早い人では延長終了後2週間～遅い人で3ヶ月になります。

この後から本格的に顎のリハビリを始めます。特別な器具を使いません。手術前と同じものをよく噛んで食べてください。顎骨が延長されましたが、同時に筋肉も延長されています。新しい筋肉の長さで顎の運動がスムーズに出来るようにして下さい。

